

「こおりやまの米」通信

斑点米カメムシ類対策号

平成26年7月2日



郡山市
イメージキャラクター
「かくとくん」

編集：郡山市 JA 郡山市 (TEL. 921-0724)

NOSAI 郡山田村 (TEL. 933-3307)

県中農林事務所農業振興普及部 (TEL. 935-1310)

発行：郡山市農作物生産対策協議会 (郡山市農業振興課 TEL. 924-3761)

「斑点米カメムシ類」注意報が6月30日に発表されました！

1. 斑点米カメムシ類の発生状況

6月下旬の水田畦畔すくい取り調査の結果、すくい取り数が例年を大きく上回りました。また、斑点米カメムシ類の発生地点割合、発生程度の高い地点割合も例年を大きく上回っています(裏面 図1～2)。

斑点米カメムシ類の中では、特に割れ粃を吸汁するアカスジカスミカメが全体の8割以上を占めています(裏面 図3)。

2. 斑点米カメムシ類対策

- (1) 畦畔雑草の草刈りをこまめに(イネ科雑草の穂が出る前に)実施し、カメムシ類の発生密度を抑えましょう。
- (2) 畦畔の草刈りを水稻の出穂前後に行うと、カメムシ類を水田に追い込むことになるので、**出穂10日前までに行いましょう。**
- (3) 繁殖源となる水田内のヒエ、ホタルイ等の除草を徹底しましょう。
- (4) 出穂の早い水田に被害が集中しやすいので、**早生品種や移植時期の早いほ場では、カメムシ類の侵入や発生に特に注意**してください。
- (5) **粉剤、液剤等による防除は、乳熟期(出穂期の7～10日後)を基本**とします。
- (6) **粒剤を使用する場合は、穂揃期～乳熟期(出穂期の3～10日後)に湛水状態で散布**します。
- (7) 割れ粃はカメムシによる吸汁を助長するので、**割れ粃の発生しやすい品種(まいひめ、あきたこまち、天のつぶ)は、特に防除を徹底**してください。
- (8) その後も発生が見られる場合は7日おきに追加防除を行いましょう。

薬剤名	使用量	使用回数	使用時期
MR. ジョーカー粉剤DL *	3～4kg/10a	2回	収穫7日前まで
スミチオン乳剤	1000倍、60～150L/10a	2回	収穫21日前まで
スタークル粉剤DL *	3kg/10a	合わせて 3回まで	収穫7日前まで
スタークル液剤10 *	1000倍、60～150L/10a		収穫7日前まで
スタークル粒剤	3kg/10a		収穫7日前まで
ダントツ粒剤	3～4kg/10a	3回	収穫7日前まで

* 蚕に対する毒性の強い農薬なので、使用規制地域を確認のうえ使用しましょう。

※カメムシに効果のある農薬には、ミツバチなどの有用昆虫に対し長期間影響のある薬剤があるため、養蜂業者(所有者不明の場合は県中家畜保健衛生所 TEL923-1661)との連絡を密にし、事故のないようにしましょう。

斑点米カメムシ類の発生状況

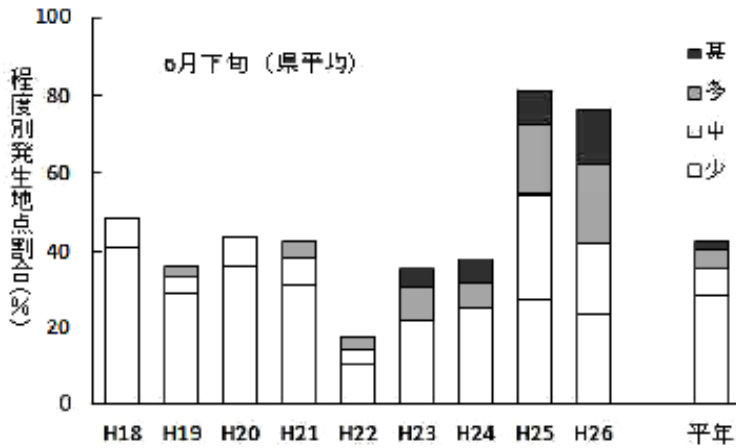


図1 水田畦畔における発生状況
 (県内 42 箇所すくい取り調査 6月下旬、20 回振り当たり)
 発生頻度：少 1~3 頭、中 4~10 頭
 多 11~30 頭、甚 31 頭以上

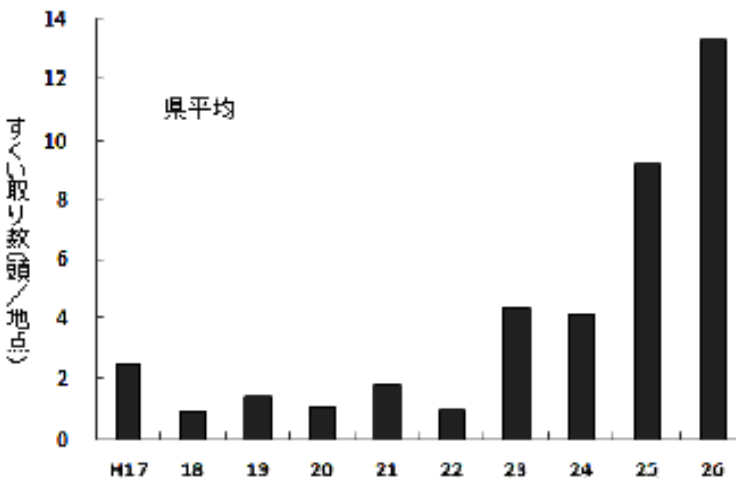


図2 すくい取り数の推移
 (6月下旬、水田畦畔、20 回振り当たり)

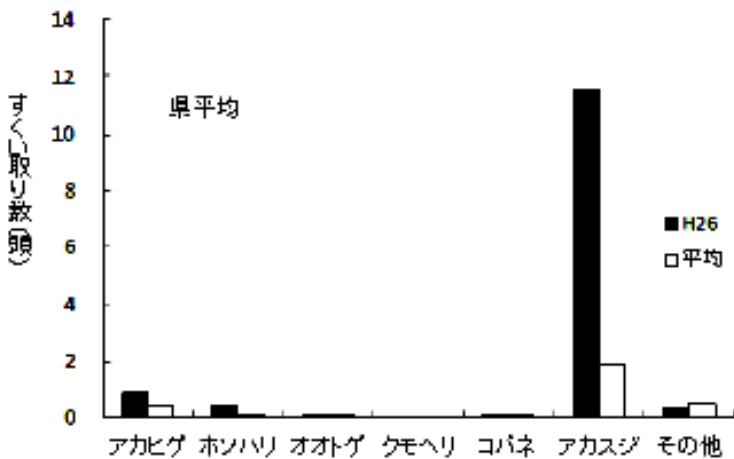


図3 斑点米カメムシ類の種別すくい取り数
 (6月下旬、水田畦畔、20 回振り当たり)
 アカヒゲ：アカヒゲホソミドリカスミカメ
 ホソハリ：ホソハリカメムシ、
 オオトゲ：オオトゲシラホシカメムシ
 クモヘリ：クモヘリカメムシ、
 コバネ：コバネヒョウタンナガカメムシ
 アカスジ：アカスジカスミカメ の略

！！農作業死亡事故多発警報発令中！！

- ・草刈等を行う場合は、周囲の安全を確認し、時間に余裕を持って作業を行いましょう。
- ・熱中症予防のため、水分や休憩を小まめに取りましょう。

この情報は、「平成 26 年度病害虫発生予察情報 注意報 第 3 号」を基に作成しています。